

## 「2014 平和行動 in 根室」の開催

日本固有の領土である北方四島が、旧ソビエトによる不法占拠を受けてから今年で69年が経過する中、元島民の「故郷へ帰りたい」という願いに一刻も早く応えるべく、9月14日から15日の2日間にわたり「2014 平和行動 in 根室」が開催された。



1日目、納沙布岬・望郷の岬公園において開催された「2014 平和ノサップ集会」に、全国から1100名の仲間が結集した。主催者挨拶にたった連合古賀伸明会長は、ロシア政府がクリル社会経済発展計画に莫大な予算を投じ、北方四島がロシアの領土であるかのような既成事実化が領土交渉を困難なものとしていること、また、日ロ政府間交渉が再スタートしたものの、ウクライナ問題の発生に伴う世界情勢の変化により今後の交渉に深刻な停滞が危惧されていることについてふれた。こうした状況に対し、「政府は北方領土返還に向けた道筋を早期に見だし、より戦略的な外交交渉に向けて努力していくことを強く求める。」と訴えた。また来年、終戦70周年を迎えるにあたり、「元島民の皆さんの高齢化は深刻なものになっており、平均年齢は約80歳になっている。もはや一瞬の猶予もない。」とし「連合は、北方領土問題の解決に向け、諸団体との連携を強化し、一層の世論喚起に努めていく。」と述べた。そして、今後、取り組むべき課題として、より戦略的な観点に基づくビザなし交流が実施されるよう諸団体と協議を進めること、北方四島にかつて日本人が住んでいた証である日本建築物の保存・再建の二つを挙げ、更に運動を強化すると連合の方向性を提起した。続いて地元北海道を



代表し挨拶にたった連合北海道出村良平事務局長は、「北海道においてもまだまだ意識・気運が高まっていない状況にある。連合北海道としても北方領土返還の意識を高めるような運動をしていかななくてはならない。参加者の皆さんも北方領土集会で学んだこと、感じたことを、ぜひとも職場や地域に戻って伝えていただきたい。」と述べた。

「元島民の訴え」として、得能 宏氏が、当時島を追われた悲惨な状況について語った。

引き続き、平和リレーが行われ、平和4行動スタートの地、沖縄へピースフラッグが受け渡された。最後に、地元釧根地協佐藤久夫会長が四島一括返還を願って力強い団結がんばろうで締めくくった。

2日目には、根室市総合文化会館において「北方領土の返還を求める連合シンポジウム」が開催され、752名が参加した。第一部では基調講演として「元島民からの訴え」として得能 宏氏より講演をいただいた。第二部ではパネルディスカッションが行われ、返還後の将来像等、様々な角度からそれぞれの立場で意見交換がされた。その中で、「日本は交渉のゴールを決めてから工程を考える、バックキャストの外交をすべき」、「労働組合としても興味を持っている人のすそのをどう広げるか考えるべき」などの提案がされた。



連合北海道は、学習したこと、様々な意見を踏まえ、今後も北方四島の一括返還が実現するまで、職場・地域にいる仲間とともに北方領土返還運動に粘り強く取り組んでいく。